



海老原靖芳

(えびはら やすよし)

放送作家。1953年、佐世保生まれ。青山学院大学経済学部卒。大学卒業後、コピーライターとして広告制作に従事しながらも、いまや伝説のテレビ番組となっている「巨泉・前武のゲバゲバ90分」の特番に持ち込んだギャグとコントの原稿が日本テレビの番組スタッフ（演出の斎藤太郎・コント作家の河野洋）に認められ、放送作家となる。以来、笑いを作る放送作家としてザ・ドリフターズ、コント赤信号、とんねるず、ビートたけしとたけし軍団、三宅裕司とSET等のコント台本を書き、「コメディー・お江戸でござる」、「ドリフ大爆笑」、「ドリフと女優の爆笑劇場」、「風雲たけし城」、「志村けんのだいじょうぶだあ」、「吉本新喜劇」など、数多くの人気番組を手がける。

佐世保市が市制百周年を迎えた2002年、市の依頼により故郷を舞台としたオリジナル脚本を執筆し、百周年にちなんで市民100人と吉本新喜劇メンバーを共演させるという吉本にとっても前代未聞の舞台、佐世保版吉本新喜劇「失われた時を求めて」を企画演出する。

現在「佐世保かっちえて落語会」と「信州ずくだせ落語会」を主催し、子供たちに落語（それも地元の名称や方言を織り込んだ創作落語）を通して自分を表現することの喜び、日本語の豊かさや奥深さ、方言の面白さなどを教えることに取り組んでおり、故郷である佐世保と長野県の軽井沢で、それぞれの子供たちへの台本提供と表現指導をし、そうした子供たちに本格的な高座で、毎回トップクラスの落語家たちの前座を務めさせている。

著書

- ・愛犬とともに過ごした日々を綴ったエッセイ『軽井沢のボーイ』
- ・江戸情緒新作落語集付き『佐世保に始まった奇蹟の落語会』
- ・自伝的エッセイ集『還暦すぎて、陽はまた昇る』

所属：日本放送作家協会
日本脚本家連盟